

# 香美町ならではの 教育の挑戦

●問い合わせ先 町教育委員会教育総務課

## ふるさと給食の取組

### ふるさと給食をご存知ですか



▲兎塚小の給食の様子

幼児期に身につけた食の好みや味覚は、成長してから簡単には変わるものではありません。そのため、子どもの頃の食育は子どもたちの「今」だけでなく「未来」を形づくる、とても大切なものです。

町教育委員会では、次代を担う子どもたちに、食育に加えて「ふるさとを大切にする心を育んでもらおう」と、町内で生産された食材をふだんに使った「ふるさと給食」を推進しています。

### 日本一のふるさと給食をめざして

「日本一のふるさと給食」を推進する本町では、平成24年5月にふるさと給食推進委員会を設置し、地元産食材の給食での利用促進、安定供給体制の構築について協議を進めてきました。

協議の中で浮かび上がった課題解決のため、翌年10月に町内の3つの給食センターと生産者の橋渡し役となる「ふるさと給食推進員」を配置しました。どの野菜をどの時期にどれだけ生産すればよいかといった調整のほか、高齢で食材を給食センターへ搬入することが困難な生産者の代わりに運搬役を担うなど、その動きにより町内全域での安定供給が可能になりました。さらには、給食における地元産野菜の



▲生産者と一緒に玉ねぎの仕分けを行う毛戸和宏推進員（左）

供給期間の延長を図るため、生産者と2人3脚で異品種の作付けや新たな保管方法の模索にも取り組んでいます。

こうした取組の結果、本町の給食における町内産野菜の使用率は、平成24年度には約17%だったものが、令和元年度には約31.5%にまで上昇。その功績が認められ、推進員は本年度の「学校給食表彰・兵庫県教育長表彰」を受賞しました。

今後も、生産者との連携を密に図りながら町内産野菜の使用率アップに努めるとともに、安全・安心でまごごろのこもった給食を提供できるよう取り組んでいきます。

（ふるさと給食については、裏表紙「ランチボックス」にも掲載）



▲エテガレイ、さつまいも、白菜、大根など地元産食材をふだんに使ったふるさと給食の献立